

『中の根本の言葉を章とした知慧（根本中論）』

（第五章）

虚空の性相の以前に、
虚空は僅かにも有るのではない。
もし、性相以前に有るならば、
性相が無いという背理になる。 1

性相の無い事物とは、
何も、何処にも、有るのではない。
性相の無い事物が無ければ、
性相は何に当てはまるのだろうか。 2

性相の無い事物とは、
何も、何処かに、有るのではない。
性相の無い事物が無ければ、
性相は何に当てはまるのだろうか。（仏）

性相の無いものに、性相は、
当てはまらない。性相と共にあるものに（当てはまるの）ではない。
性相と共にあるか、性相の無いものより、
他にも当てはまるとはならない。 3

性相が当てはまるのでなければ、
事相は合理にはならない。
事相が合理でないならば、
性相も有るのではない。 4

それ故に、事相は有るのではなく、
性相はまさしく有るのではない。
事相と性相以外の
事物も有るのではない。 5

事物が有るのでなければ、
無事物は何のものであるのだろうか。
事物と無事物は合致しない法（現象）である。
何ものが事物と無事物を知ろうか。 6

それ故に虚空は事物ではない。
無事物ではなく、事相ではない。
性相ではない。五元素である、
他の何れもが、虚空に等しい。 7

小心者で、諸事物を
有無そのものであると
視る者達は、視られる対象が
熄滅した寂靜を見ない。 8

「界を考察する」という第五章である。

(第六章)

もし食欲の以前に、
食欲が無い、欲す者が有るならば、
それに依拠して食欲が有る。
欲す者が有れば、食欲は有ることになる。 1

欲す者が有るとならなくとも、
食欲が有ると、何処でなろうか。
欲す者についても、食欲が、
有るか、無いかも、次第は等しい。 2

欲す者が有るとなろうとも、
食欲が有ると、何処でなろうか。
欲す者についても、食欲が、
有るか、無いかも、次第は等しい。(仏)

食欲と欲す者が、
まさしく一緒に生じるとは正理ではない。
このように、食欲と欲す者は、
相互関係が無くなるだろう。 3

まさしく同一であるものは、まさしく一緒には無く、
まさしくそれは、それと一緒にではない。
もし、別そのものであるならば、
まさしく一緒であると、如何様になろうか。 4

まさしく同一であるものは、まさしく一緒には無く、まさしくそれは、それと一緒にではない。もし、別そのものであるならば、一緒であると、如何様になろうか。(顕)

もし、一つだけが一緒であるならば、
友が無くともそうなるだろう。
もし、別のものが一緒であるならば、
友が無くともそうなるだろう。 5

もし、別が一緒であるならば、
如何にして食欲と欲す者が、
別そのものとして成立するとなろうか。
然れば、その二つは一緒となる。 6

もし、別が一緒であるならば、
食欲と欲す者は何であろうか。
別そのものとして成立したとなれば、然れば、
その二つは一緒となる。(仏)

もし、食欲と欲す者が、
まさしく別として成立したならば、
それらはまさしく一緒であると、
何故、尽く考えるのか。 7

別として成立したとならないので、
それ故に、一緒に主張するならば、
一緒に良く論証せられる為に、
まさしく別であると、再び主張するのか。 8

別として成立したとならないので、
それ故に、一緒に主張するのか。
一緒に良く論証せられる為に、
まさしく別であると、再び主張するのか。(仏)

別の事物は成立していないので、
一緒にの事物は成立しないだろう。
別の事物である何が有れば、
一緒にの事物であると主張するのか。 9

別の事物は成立していないので、
一緒にの事物は成立しないだろう。
別の事物である何を、
一緒にの事物であると主張するのか。(仏)

別の事物として成立していないので、
(顕・1行目)

そのように、食欲と欲す者は、
一緒であるとも、一緒でないとも成立しない。
食欲の如く、全ての諸法（現象）は、
一緒であるとも、一緒でないとも成立しない。 10

「食欲と欲す者を考察する」という第六章である。

※ (仏) は、『根本中論』チョコクロ訳（『ブッダパーリタ』に引用された旧訳）で、パツァブ訳（新訳）と異なる記述。

(顕) は、パツァブ訳（新訳）ではあるが、『根本中論』本論と記述が異なる『顕句論』で引用された偈を示す。